

# かぐらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

## 第 133 号

平成20年 5月30日

編集 旭川医科大学

発行 教務部学生支援課



「千望台のさくら」(上富良野町)

(写真撮影：学生支援課)

新入生を迎えて……………吉田 晃敏………… 2	看護学科第1学年 池田 望………… 10
医学科新入生を迎えて……………内藤 永………… 3	看護学科第1学年 和田枝里子………… 10
看護学科新入生を迎えて……………加藤千津子………… 4	外国人留学生在籍者一覧…………… 11
平成20年度医学科入学者名簿…………… 5	平成20年度大学院入学者名簿…………… 11
平成20年度看護学科入学者名簿…………… 6	教授就任のご挨拶……………本間 龍也………… 12
平成20年度看護学科第3年次編入学者名簿…………… 6	教授就任のご挨拶……………立野 裕幸………… 13
新入生を迎えて	教授就任のご挨拶……………作宮 洋子………… 14
医学科第6学年 石橋 佳………… 7	平成20年度 入学式 …………… 15
看護学科第4学年 田中 麻理………… 7	平成19年度 学位記授与式 …………… 15
旭川医科大学に入学して	平成20年度 医学科・看護学科新入生合同研修会 …… 16
医学科第1学年 岩沖 美里………… 8	大学機関別認証評価について…………… 17
医学科第1学年 藤原 智貴………… 8	教員の異動…………… 18
医学科第1学年 北田 洋子………… 9	医大祭2008に向けて…………… 18
医学科第1学年 渡邊 仁………… 9	



## 新入生を迎えて

旭川医科大学長 吉田 晃 敏

旭川医科大学に新しく入学された、医学科第1学年90名の皆さん、看護学科第1学年60名の皆さん、同じく看護学科第3学年編入生10名の皆さん、ご入学おめでとう。本学を代表し、心から祝福し歓迎します。皆さんは、大きな希望と期待を持って本学に入学されたことと思います。皆さんの夢を、希望を、現実のものに出来るよう、私達教職員はあらゆる面で応援します。

ご承知のとおり本学は、高度な知識・技術を身につけた医療人・研究者の育成や地域医療に根ざした医療・福祉の向上に貢献する医療者の育成、さらには、国際社会の発展に寄与する医師・看護職者の養成という、極めて高い教育理念を建学以来掲げてきました。私達教職員は、この理念に基づき皆さんの指導に当たって参ります。

ここでひとつ、現実的な問題を取り上げたいと思います。それは「医師不足」の問題です。本学は、今から35年前の昭和48年、医師不足解消をスローガンにした「一県一医大構想」に基づき誕生しました。既に医師不足が叫ばれ始めていた頃でもあり、本学の開校は、地域医療の未来にとって極めて明るいニュースとして、北海道民から大いなる期待をもって受け止められました。

しかしながら、現在もなお、この医師不足問題は解決しておりません。逆に深刻さを増しています。四年前にスタートした卒業後の新しい研修制度も、大学に残って研修を続ける医師の数を大きく減少させる結果を招いており、地方の医師不足に拍車をかけることになりました。北海道内でも、至る所で診療科の休診が相次ぎ、閉鎖に追い込まれる病院が後を絶ちません。

そして今、看護師不足も大きな問題になっています。国は、入院患者さん7人に対し1人の看護師がお世話をする、いわゆる「7：1看護体制」を理想の看護体制であると推奨しました。それ以来、看護師の「ニーズ」・「人気」は一気に高まり、看護師不足は全国的な問題となっています。旭川医科大学病院においても、ICUや手術室の拡張などを考えると、看護師不足は依然として解消されておりません。

このような、医師不足・看護師不足という極めて厳しい状況の中、皆さんは、旭川医科大学に入学しました。「地域の医療をいかに守るか」が最大の課題となっている中、将来の医師・看護師を目指す皆さん方へ寄せられる社会の期待は、今、かつてないほどに高まっているのです。

皆さんは、この社会情勢をチャンスと捉えるべきです。「旭川医科大学の学生」として、「将来国民の期待に応えられる医師・看護師」を目指して頑張りたいと強く願います。

さて、今の皆さんにとってもう少し身近なことを

説明しましょう。私は旭川医科大学の第一期生です。以来35年、大学と共に歩いて来ましたので、学生諸君のニーズは十分に判っているつもりです。去年夏に学長に就任して以来、学生諸君の「やる気」に応えるための側面支援に力を入れて参りました。皆さんの入学に間に合うようにと整備を急いだ「学生交流サロン」も、予定通りオープンしました。体育館の床も新しく張り替え、その2階にあるトレーニングルームでは、古くなっていた筋力トレーニング群を一新しました。

一方図書館には、「地域医療コーナー」を設け、地域医療の現状を学ぶための資料を幅広く取り揃えました。地域の医師不足について深く学ぼうと思えば存分に学べる環境が本学には既に整っています。あとは皆さんが、どれだけ「積極的に取り組んでいくか」…、つまり、皆さん次第だということになります。

大学は、高校とは違って、教師が皆さんの舵取り役となって、進むべき道筋を示してくれる場所ではありません。皆さん自らが舵取り役とならなければ、多くを学べない場所です。頭を切り替えましょう。医学の勉強はもちろんのこと、クラブ活動などにも自ら前向きに身を投じることで、「物事に対して積極的に取り組む姿勢・態度」を、一日も早く身につけて下さい。このことは、良き医療人となるためのトレーニングとも重なってきます。

同時に磨いて欲しいのは、コミュニケーション能力です。友人、先輩、教員に対するしっかりとした「挨拶」も、コミュニケーションを図る上では欠かせません。挨拶の話をすると、軽く受け流す人も多いのですが、将来病院などの医療機関で働く時はもちろん、国際的な活躍の場が与えられた時にも、基本的な挨拶の出来不出来が、皆さんの評価を決することに繋がります。このようなコミュニケーション能力を磨くことは、次のステップとして、「他人への思いやり」、すなわち「他者への配慮」が出来るかどうかという極めて重要な点とも繋がってきます。

是非、入学を契機に、自らが舵取り役となって「物事に積極的に取り組む姿勢」、そして「他者への配慮を欠かさないコミュニケーション能力」を磨いて欲しいと願います。

日々命と向き合う医療の最前線は、皆さんの医師・看護師としてのデビューを、今から心待ちにしています。

さあ、これからは、楽しいことがたくさん皆さんを待っています。どうぞ、意義のある、そして充実した学生生活を送って下さい。

旭川医科大学は、皆さんを応援しています。

皆さんの今後の活躍を心から祈念し、学長からの歓迎の言葉と致します。



## 医学科新入生を迎えて

医学科第1学年担当 内藤 永

医学科新入生の皆さん、旭川医科大学への入学おめでとうございます。

私が高校生ときはまだ携帯電話という言葉はなかったように思います。携帯電話といい、一部の富裕層が所持するものであり、重量があるために機材を肩から下げる形状でした。今では、当時のコンピュータ以上の性能を持ち、なおかつ、胸ポケットに入るサイズで、だれもが手にできるものとなりました。その役割も日常的なコミュニケーションや業務に必須のツールと変化しています。これは急速な時代の変化の一例に過ぎません。政治、社会、経済の様々な制度が、科学技術の目覚ましい進歩と相俟って、大きく変化しようとしています。数十年後に今の時代を振り返ったときには、18世紀から19世紀にかけて起きた産業革命に匹敵する変革と位置づけられるだろう、との予想があるくらいです。

このような時代で力強く成長していくためには、目先の変化を追うのではなく、志を持って日々努力することが重要になります。以下は、吉田松陰の言葉です。

夫れ重きを以て任と為す者、才を以て恃み（たのみ）と為すに足らず。知を以て恃みと為すに足らず。必ずや志を以て気を率い、黽勉（びんべん）事に従いて而る後可なり。

皆さんは人の生命を助けるという重き任を担う職業を目指しています。最難関とされる医学部の試験に合格する才があり、大学の六年間で多くの知を蓄積することになりますが、それらは、抛り所にはならないのです。抛り所というよりも、スタートラインに立つための資格のようなものです。志によって気を奮い立たせること、さらに仕事に励むことにより、重き任を全うすることができるのです。

皆さんはどのような志があるでしょうか。入学式の日に行われたガイダンスの中でそのことを皆さんに問い、それぞれの思いを書いてもらいました。それを起点に、具体化に向けた努力をして、大きく成

長してください（万が一、志を忘れたとき、志を見失ったときは、研究室を訪れてください。皆さん自身が書いた思いを一緒に振り返ってみたいと思います）。

上の引用文の中で、志に加えて、もう一つ注目して欲しい言葉があります。「黽勉事に従いて」です。変化の激しい時代にあって、果たしてこれでいいだろうか、と様々なことに思い悩む学生は多いと思います。しかし、悩むことだけで時間を過ごさないでください。何かに従事すること、黽勉努力することが鍵となります。その中で、志を新たにすること、志が鮮明になること、小さな志が大きな志へと進化することが起きるのです。

皆さんの先輩の中には、このような人がいます。1年生の頃、私の研究室を訪れ、「大して勉強ができる訳でもなく、才能が豊かな訳でもない、そんな自分ですけど、国際的な視野を持った外科医になりたい、という夢があります。何をすればいいでしょうか？」と質問してきました。確かに、成績はさほど良くないようでした。英語もできませんでした。私のアドバイスは、夢を強く抱き続けること、しかし、日々の努力は地道に、そして少しずつステップアップすることでした。5年後、アメリカからの訪問者の接待でキャンパスを歩く彼を見かけました。ペラペラの英語で会話をしていました。卒業するときに、挨拶に来てくれました。「入学したとき、先生の部屋を訪れたとき、今の自分の姿は全然想像することができなかった」と語っていました。彼は夢を目標に変えて、その実現のために着実な歩みを今も続けています。

グローバル化の時代となりました。地方の大学にいても、地方に住んでいても、色々なことができる時代となりました。積極的に行動する意志さえあれば、多くの経験を積むことができます。皆さんの志が実現し、次なる志に向かって躍進することを期待しています。





## 看護学科新入生を迎えて

看護学科第1学年担当 加藤 千津子

平成20年度医学部看護学科新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。

心よりお祝いを申し上げます。皆さんは受験という難関を乗り越えて、期待と緊張の中で入学式を迎え、4年間の大学生としての生活を歩み始めたことでしょう。そして5月も後半になり、旭川らしいさわやかな季節を迎え、大学での勉学や新しい生活環境にも少しずつ慣れてきた頃ではないでしょうか。

60名の皆さんは入学の動機はさまざまですが、看護学を学ぶ仲間として出会い、同じスタートラインにたっているのです。これからの4年間はともに学び汗も流し、そして励まし合い助け合いながら、一人一人が有意義な学生生活を送ることを願っています。

そこでガイダンスでもお話しましたが、大学における学習は高校までの「正解を出す、求める」から「考える」へ大きくシフトします。“考えるthinking”ことは、明らかな答えのないものも多く、「こういうふうに見える」とか「こういうふう考える」という「自分の頭で考え、自分なりのものの見方や考えをもつこと」です。そして自分を発展させるような積極的な学習、つまり自ら学ぶ力を培ったり学習する習慣を身につけることも重要になります。皆さんの先輩のある卒業生が、「大学で看護を学べたことはとても良かった。それは知識の習得はもちろんであるが、それ以上に自分で考える力とわからないことを探索する力を育むことができたことである」と述べていました。

看護はヒューマンケア、すなわち人権の尊重を基盤とした健康な生活への支援であり、正確な知識・技術と豊かな人間性に基づく行為が求められます。そして看護職の活動は、人間や人間の生活に深く関わりながら、利用者の人として生き方・希求・価値観にそって、その人の健康生活と自己実現を支えるという特徴があります。その過程で個別的状況に応じた深い人間理解と人間的・倫理的な判断力が問われます。豊かな人間性を育む教養を深めることは、広い視野での見識や多様な価値観の育成につながり

ます。また教室や部活などの学園生活や一市民としての地域での生活における多くの人々とのふれあいや語らいは、多様な価値観を学んだり、アイデンティティの確立に向けて、不安や葛藤に直面しながらも自己の生き方を見出ししていく源になるでしょう。そしてその関わりの中で、人生においてかけがえのない生涯の友を得る人もいることと思います。またコミュニケーションは看護における対象者との関係性の構築において基本になるものです。次に読書の勧めですが、読書は人間理解を助け想像力を育てて人生を豊かにします。情報化社会の現在、インターネットを駆使することで容易に情報を得ることが可能ですが、書物から学ぶことも重要と思います。

医療・保健・福祉の領域はますます高度化・グローバル化していくことが予想されます。将来の看護の担い手である皆さんは、「確かな知識や技術に裏付けされた思考力」や「問題解決能力」が求められ、チーム医療の重要な構成員として、自律した専門職として役割が期待されています。専門職とは生涯学び続ける存在であり、皆さんは今、看護の生涯学習の出発点にいるとも言えます。まずは看護の基礎を着実に学んでいきましょう。私はNHKの「プロフェッショナル仕事の流儀」という番組をときどき視るのですが、出演者は誰もが認めるその道のプロで、新しい時代を切り開こうと格闘中の挑戦者でもあり、自分の仕事と生き方に確固とした『流儀』をもっている仕事人です。そしてテーマ曲“Progress”の最後に、困難や挫折があっても“あと一歩だけ、前に進もう”という言葉に、ときどき背中を押してもらっています。

これからの4年間、将来看護のプロフェッショナルとして活躍するための基礎を学び、充実した学生生活を送ることを期待いたします。

学年担任としてできる限りの応援をしたいと考えていますので、いつでも気軽に研究室(503)をノックして下さい。

(看護学科 教授)



平成20年度医学科入学者名簿



平成20年度看護学科入学者名簿

## 新入生を迎えて

医学科第6学年 石橋 佳



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、皆さんはどのような気持ちで大学生活を送っていますか。今日は僕が過ごした5年間の大学生活を振り返り、思うことを皆さんに伝えたいと思います。

今この文章を読んでいる多くの新入生の皆さんは何かしらの部活に入部したかと思いますが、是非その部活を楽しんでください。部活の先輩、同級生、そして来年入部するであろう後輩を大切にしてください。部活の仲間とは大学生活で本当に多くの時間を共にします。そして、色々な思い出を作っていく仲間です。卒業するまで沢山の苦労と喜び、楽しみを共有し成長していきましょう。人との繋がりや人生の宝です。(と、僕のじいちゃんが言ってました(笑))宝は大切にしてくださいね♪

ところで、こんな僕が言うのもアレなんですけど大学は勉学に励む場所なのです。ですから、大学生の本分である勉強は…そこそこはしましょう(笑)こう書くと本当に勉強しない人がいそうですが、ちゃんと最低限の勉強はしてくださいね(^^)最低限の勉強をした上で、自分がやりたいことを思い切りやってください。大学生、時間が有り余るほどあるなぁと油断していると気付いたら最上級生になっちゃってます。自分が4年生、6年生になったときに自分がやりたいことが出来なかった…と後悔しないように、与えられた大学生という時間を満喫してください。出来れば色々な活動に参加することをお勧めします。色々な活動に参加し、自分のコミュニティを広げていきましょう。きっとそこで得た経験や知識は将来どこかで役立つでしょう。多分ですが。

こんなふざけた僕が書いた文章を最後まで読んでくれてありがとうございました。最後に本当に言いたいことを書いて終わります。

大学生は自由です。やりたいことが何でもできます。ただ、全ての行動には責任が伴うということを常に心に置いておいてください。

では、皆さんの旭医生活に幸あれ♪



## 新入生を迎えて

看護学科4学年 田中 麻理



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。厳しい入試を無事に終え、講義や部活動も開始し大学生活に慣れてきた頃でしょうか。

私は今年、大学生活最後の1年を迎えました。日々を過ごしている時にはゆっくりと時間が流れ1日が長く感じることもありましたが、改めて今までの3年を振り返るととても早く時間が過ぎていった感じがしています。

そこで新入生の皆さんに伝えたいことは、学生生活はあっという間に過ぎてしまうので、「自分が挑戦してみたいと思ったことは躊躇せずやり、勉強の他に部活やバイトなどいろんな事に取り組んでみたら良い」ということです。

部活やバイトでは幅広い年齢の人と関わるため、人生経験豊かな人と話すことで、今までにない刺激を受けて自分の為になると思います。また人は

それぞれ様々な考え方を持っているので、悩んだ時には仲間同士で意見を出し合って問題解決していくことも出来ます。そうすることで、コミュニケーションの仕方を学び、辛い時の対処行動などが身につく人間性を磨くことができると思います。しかし、いろんな事に挑戦しすぎて中途半端になってしまう可能性があるため、やる時はやるという気持ちを持って一生懸命になることで達成感を得ることが出来ると思います。

また、勉強や実習、将来についての不安も大きいと思います。医学部に入ったからといって将来の道は1つではなく、看護科でいえば看護師・保健師・助産師などになるといういくつかの選択肢があり、病院で働くにしても消化器科・循環器科など様々な科があります。そこで大切なことは、先輩や先生など人の話を参考にしながら、1年生のうちから少しずつでも自分の中で将来について考えておく良いと思います。そうすることで、勉強や実習についての興味や意欲も増すのではないのでしょうか。

これから様々な経験をし成長していく中で、何事に対しても謙虚な姿勢で、周りの人達への感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。

最後になりますが、皆さんが大学生活という青春の日々を充実して楽しく過ごせることを願っています。



## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 岩 沖 美 里



入学から1ヶ月が過ぎましたが、正直今もまだ自分が旭川医科大学の生徒であることが夢のようです。それと同時に小さい頃からの夢であった医師になれるのだという喜びをひしひしと感じています。

昨年10月にAO入試の合格発表があってから入学するまでの間、大学から出された課題をしたり、自動車学校に通ったり、塾の講師や家庭教師をしたりと充実した日々を過ごすことができました。バイトをすることで子どもに勉強を教える楽しさややりがいを感じることができました。また大学から出された地域医療の課題をするために、重症心身障害児施設にお邪魔して先生方からいろいろな話を聞いたり

患者さんと直接触れ合ったりと、たくさん学ぶことが出来ました。そして今は、一般教養から専門的なことまで幅広い内容の講義を受けたり、部活をしたり、家事をしたりと、相変わらず充実した日々を過ごすことができています。

旭医の雰囲気は大変良く、先生方や先輩方は優しく接して下さるし、友人とは学業面や生活面で切磋琢磨し、和気あいあいと楽しく過ごしています。広島から遠く離れて不安なことは多々ありますが、素敵な方がたくさんいる旭川医科大学に入学することができて本当に幸せだと感じています。

医師として、患者さんはもちろんのこと、そのご家族や他の医療従事者の方たちと協力して、患者さんとの心の触れ合いを大切にしたい全人的な関係を築いていけるように、倫理観・人間性をしっかり整えた上で専門的知識を学んでいきたいと考えています。これから6年間部活に勉強にとしっかり取り組んで、人間的にも成長したいと思います。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 藤 原 智 貴



受験当日にひどく緊張しながら訪れた旭川医科大学の校舎で日々を楽しく過ごしていることが、未だに嘘のように感じられます。入学してからのひとは新歓合宿や説明会などいろいろな出来事があり、本当にあっという間でした。

入学前に、旭川医大の魅力は様々な背景をもつ人がいることだと多くの先輩方から聞いていました。実際に入学してみるとまさにその通りで、年齢も出身地も違う、今までに出会ったことのないような人ばかりであることに驚きました。中学・高校を同じ学校で過ごした私は環境の変化に少しばかり戸惑ってしまいましたが、そのような人たちとの交流は自分にとってプラスになることが多く、毎日が新鮮に感じられます。先輩方は優しく楽しい人ばかりで、

そんな先輩方のいる部活の雰囲気はとてもアットホームであり、楽しみながらも競技には真剣に打ち込むことができます。

いざ大学の授業を受けてみると、高校の勉強のようにただ授業の内容を理解するだけでは思うようにいかず、旭川医大の校風である自学自習の精神の大切さを痛感しています。自分は周りについていけるのだろうかという不安を感じることもありますが、友達と助け合い、切磋琢磨しながら頑張っていけたらと思っています。

これから過ごす6年間の大学生活では、医師に求められる豊富な知識と技術、体力やコミュニケーション能力を身につけると共に、人間的にも大きく成長していきたいと思っています。そのために勉強や部活をはじめ何事にも手を抜かずに取りくんでいくつもりです。そして将来は患者さん一人一人を思いやりと同時に、地域の人々の医療に対するニーズを受け止め、それに積極的に応えていける医師になれるよう、この旭川医科大学で頑張っていきたいです。



## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 北田 洋子



気がつけば入学してから1ヶ月が経ちました。たくさん先輩に出迎えられながら学校に向かった入学式から今日まで、まるでジェットコースターのような日々でした。入学式の日の私は不安でいっ

ぱいでした。しかし今は、あのときの不安が嘘のように、新しい友達、一人暮らし、授業、実習、部活、たくさんの初めてを経験しながら毎日充実した日々を送っています。

実習や授業は大変興味深いものが多く、先生方も熱心に指導してくださり知らなかったことを知るこの喜びを感じています。また、先輩方はみなとても優しい方ばかりでたくさんのことをアドバイスしてください。知り合ってから1ヶ月とは思えないくらいに仲良しな友達もできました。一緒にごはんを作ったり、お互いの家に泊まったり、買い物に行っ

たりと一人暮らしならではの家族のような友人関係はとても心地よく、毎日が楽しいです。

しかし、一人暮らしは自由な反面たくさん責任が付きまわっているんだということも実感しています。当たり前ですが掃除も洗濯もすべて自分でやらなければいけません。ご飯も自分で用意しなければ何も食べられません。生活面だけでなく、大学生活は高校とは全く違い、与えられた課題をただこなすのではなく、自分で考えて能動的に勉強しなければなりません。授業の中には、先生のお話を聞いているだけでは理解できない内容もたくさんあります。不安になることもしばしばありますが、友達と助け合って乗り越えていきたいです。

旭川医科大学に入学できたことで、医師になるという夢のはじめの一步を踏み出すことができました。これからの6年間には辛いことや戸惑うこともたくさんあると思います。しかし、せっかく一步を踏み出すことができたんだから将来患者さんに信頼される医師になれるように、また人間的にも成長できるように努力を続けていきたいと思います。私は旭川医科大学に入学することができて本当に幸せです。

## 旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 渡邊 仁



私が旭川医科大学の合格を知ったのは忘れもしない11月…月上旬。いや…中頃だったかな？…まあそのくらいの頃です。

その時はあまりにも嬉しくて、そして信じられなかったのもあったので何度も何度も自分の受験番号を確認しました。

そしていつしか毎朝自分の受験番号を見てガッツポーズをするのが日課になっていました。

そんなことをしているうちに地元、新潟を発つ日がいつの間にかやってきました。

旭川に来た当初は知り合いも少なく、料理も知らず、部屋にカーテンも無かったのでとても不安でした。頼れるものはサトウのご飯と窓に立てかけるダンボールくらいでした。

しかし入学式後の2年生が企画してくれた新歓合宿で信頼できる友達がたくさんでき、そんな不安など吹っ飛びました。

今では旭川は第二の故郷と言えるくらい住み心地が良いです。

首都圏に行った人たちは「あの何もなさそうな田舎ね」と言うけれど、旭川はご飯おいしいし、空気おいしいし、リフト券安いし、道路は広いし、人は親切だし、住んでいたらなんか肌がすべすべになったし、ホント良いとたくさんあるじゃないですか！

1ヶ月しか住んでいませんが、もうすでに旭川を愛してしまっています。

部活はアイスホッケー部に入りました。小学校1年生の頃からアイスホッケーをやっていたのですぐに決めました。経験者が全然いなくても東医大を2連覇しているという熱い部活です。今年はたくさん1年生が入り、ますます活気付いています。これからのアイスホッケー部の活躍を期待してください！

この先楽しいことばかりではなく、苦しい時が必ずくるでしょう。しかしこの大学で出会ったたくさん仲間達となら共に乗り越えられる気がします。

そしてそんな仲間達と一緒に医者になり共に支えあって行けたら最高だなと心から思っています。本当にこの大学に来ることができて良かったです。

## 旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 池田 望



「合格おめでとう」という電話が高校の先生から入ったのは10時を少し過ぎた、私がインターネットを開く前のことでした。センター試験でひどい失敗をした上、2次試験の内容にも全く自信のなかった私はその電話が全く信じられず、「本当に私の番号ですか？」と聞き返してしまい、先生に笑われたことを今でも鮮明に覚えています。そんな“本当に自分が合格したのか？”という不安は、次の日合格通知書がきても変わらず、結局入学式前日まで続きました。しかし、入学式当日、部活の勧誘をする先輩方に会った途端、その不安は払拭され、今ではそんな自分のネガティ

ブさに笑えてしまいます。

そして、旭川医科大学に入学して約1か月が経ちます。看護技術に関する授業はまだ本格的には始まっていませんが、ユニホーム合わせも終わり、看護師という職業に少し近づいたことを実感しました。また、部活には水泳部に入部し、受験勉強をしていた頃に想像していた大学生活よりはるかに楽しい毎を送り、本当に合格できてよかったと思わない日はありません。

これから旭川医科大学で過ごす4年間を通して、勉強面ではもちろん、たくさんの人との関わりの中で、精神面でも成長することができると思います。4年後も変わらず旭川医科大学に来てよかったと思えるよう、たくさんのことを学んでいきたいです。

## 夢を実現するために

看護学科第1学年 和田 枝里子



医療関係の仕事に就くこと。それが私の小さい頃からの夢でした。私自身が他の人の命のために役に立つことができる、ということに憧れを感じていたのだと思います。そして次第に、より患者さんの近くで仕事ができる、看護師という仕事を志すようになりました。

高校までは、やはり、看護師という夢を漠然としか考えていませんでした。ただの憧れだったと言えるくらいの、夢だったと思います。しかし、旭川医科大学に入学し、看護師という夢に一步近付くことができた今、私は喜びと期待でいっぱいです。

入ってすぐの私は、周りの同級生は皆旭川出身だと思っていたのですが、私と同じ札幌出身の人だったり、道外からはるばる来ている人や、私よりひと回り年上の方など、さまざまな同級生がいることにとても驚きました。

毎日の授業は、看護、健康、人間など、看護師になるためには欠かすことのできないものばかりです。やはり専門知識が多いですが、私にとっては興味のある分野ばかりなので、講義1つ1つをととても楽しんで受けています。

また、部活では中学校のときに1度経験していたソフトテニス部に入部しました。最初は、他の部活も考えていましたが、部活動見学に行ったその日に、雰囲気よさに惹かれてすぐに入部しました。現在は、もっともっと強くなるために先輩方や友人と一緒に練習に励んでいます。

今、こんなにも充実した毎を送ることができているのは、素敵な友人、先生方、先輩、のおかげです。旭川医科大学にいる人たちは、雰囲気がとても暖かいです。常に熱心に講義をしてくださる先生方。新入生に優しく、楽しく声をかけてくださる先輩方。毎日、他愛ない話で盛り上げられる友人たち。そんな人達と同じキャンパス内で、共に過ごしていけることは、とても幸せなことだと感じています。そんな周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに、看護師へと続く旭医での毎日を、大切に過ごしていきたいと思っています。

◎外国人留学生在籍者一覧

平成20年4月1日現在

氏 名	国 籍	学 年	期 間	所 属
LIU, XIAO YU (刘 晓 宇)	中 国	博士課程 第4学年	2005.4.1~ 2009.3.31	細胞・器官系
MIREGULI, MAIMAITI (米热古丽 买买提)	中 国	博士課程 第3学年	2006.4.1~ 2010.3.31	生体情報調節系
NKOUAWA, AGATHE	カメルーン	博士課程 第2学年	2007.4.1~ 2011.3.31	医 学 専 攻
Ali Abd AL-Karim Talib	イ ラ ク	博士課程 第2学年	2007.4.1~ 2011.3.31	医 学 専 攻
Ahmed Abdul Karim Talib	イ ラ ク	博士課程 第1学年	2008.4.1~ 2012.3.31	医 学 専 攻
Kamel Mohamed Khatiri Mahamoud	エ ジ プ ト	博士課程 第1学年	2008.4.1~ 2012.3.31	医 学 専 攻
Ma, YANJU (马 艳 菊)	中 国	博士課程 第1学年	2008.4.1~ 2012.3.31	医 学 専 攻

平成20年度 大学院入学者名簿



## 教授就任のご挨拶

一般教育等 物理学教室 教授 本間 龍也

平成20年4月1日付で、一般教育の物理学教授を拝命いたしました。平成5年4月に本学講師として採用され、助教授（現；准教授）を経た15年本学にて、物理学の教育と研究に励んで参りました。その間、前物理学教授の谷本光穂先生からは特に医学物理教育の大切さと難しさについてご指導を賜りました。これまで育んできた経験をもとに、本学学生にとっての最善の教育方法を模索しながら頑張る所存です。

私は、昭和59年に北海道大学（理I系）に入学し、今で言う“地球にやさしい”発電技術である核融合に興味を抱き、昭和61年に工学部原子工学科へと移行しました。大学で学ぶうち“超伝導”という物理現象が核融合発電を支える技術として重要であることを知り、大学4年次の研究室配属から、超伝導研究の道へ入りました。研究室配属になった当時、銅を含むセラミック系の新超伝導物質（銅酸化物高温超伝導体）の研究成果が世界中を駆け巡り、後にも先にも例をみないというほどテレビや新聞等を賑わしました。同じ学科から宇宙飛行士が誕生し、北海道の環境問題のはしりともいえる脱スパイク運動を推進する先生、また試験管核融合で注目を集める先生。工学部の食堂に出かければ、日本南極地域観測隊の元隊長から当時の貴重な体験談を伺える機会に恵まれ、（私にとっては）夢あふれる中で北大での大学・大学院生活を送ることができました。

私が本学に採用して頂いたのは、そのような学生時代を終え、博士（工学）の学位取得直後の平成5年4月です。着任当初、二年生の物理学Ⅱ（実習を含む）と自然科学特別実験（物理学分野）を、また当時、情報処理の専任教員ポストがなかったため、一年生の統計情報処理の実習指導も担当しました。学生は、皆さん素直で、向上心が強く、質問に来た学生に夜遅くまでお付き合いするのも苦ではありませんでした。むしろ、楽しい思い出です。

私は、“銅酸化物高温超伝導体で超伝導がどうして発現するのか？”について研究しています。超伝導とは、物質の電気抵抗が零になる現象のことで、そのような物質を超伝導物質と呼びます。一般に、物質は電気の流れを妨げようとする性質を持っています。この妨げる度合いを電気抵抗といいます。電気抵抗の大きい物質ほど電気が流れにくいわけです。家電製品を使用していると本体あるいは電源コードが熱くなってしまうのは、電気抵抗によって電気エネルギーの一部が無駄に消費された結果です。従って、超伝導物質を利用すれば、効率よく電気を使えることとなります。また、超伝導物質で作った電磁石は強力な磁場を生みだせるので、核融合発電、リニアモーターカー、医療の分野では小型で高分解能のMRIが実現可能となります。

医学科や看護学科の学生は、私のような物理学者になるわけではありません。しかし、卒業後、他の職種に比べ物理学関連の技術に接する機会が多いのではないのでしょうか。体温計や血圧計、レントゲン写真といった身近なものから、上述のMRI、最近、耳にするPETという診断技術まで、医療機器には物理学の分野で確立した原理や技術を応用した例が以外と多くあります。そのような機器の仕組みを理解できれば、十分に使いこなせるでしょうし、患者さんから安全性等の質問を受けても自信を持って答えることができるでしょう。物理学に関する講義と実習は、主に1年生で開講されています。短い期間ではありますが、講義と実習を通して学生の皆さんが、物理学の基本的知識を身につけることができればと願っております。

来年度からは、新カリキュラムが始動し、また将来の北海道地域医療の担い手と期待される学生が入学してきます。本学におけるこの大きな教育改革に物理学の教授として、これまで以上に貢献できればと考えております。よろしくお願い致します。





## 教授就任のご挨拶

一般教育等 生物学 教授 立野 裕 幸

平成20年4月1日付けで、一般教育 生物学教室の教授を拝命致しました。現在、本学は北海道の地域医療を支える医療人の養成を大きな目標の1つに掲げ、入試制度改革を行っています。本年度はすでに地域推薦枠の10名が入学し、平成21年度にはOA入試北海道地域枠の35名が加わります。この改革が実りあるものになるよう、初年次の教育に携わる教員としてこれまで以上にエネルギーを費やす覚悟です。

生物学教室は初代美甘和哉先生によって教育・研究の基盤がつくられ、先代上口勇次郎先生へと受け継がれてきました。私は昭和55年弘前大学理学部生物学科を卒業後、すぐに生物学教室の研究生となり、その後、教務職員、講師、助教授（准教授）としての28年間、生物学教室一筋で歩んできました。その間、私自身が研究の指導を受け、また、医学部における基礎教育のあり方についても多くを学んできました。今、その教室を任される立場になり、日ごとに責任の重さが増してくるのを実感しています。

生物学教室では、知識や技術を教えるだけでなく、『学ぶ』という学生としての基本姿勢についての助言・指導も積極的に行っています。初年次の学生に対してはむしろ後者の方が重要であると思っています。また、教育のための環境づくりにも力を入れています。1つの例として、学生実習では開学当時から光源内蔵でメカニカルステージ付きの双眼式顕微鏡を使用しています。当時は学生用顕微鏡というと反射鏡の付いた単眼式が当り前の時代でした。旭川医大に来て、学生全員が双眼式顕微鏡を使っているのを初めて見た時には大変驚きましたし、同時に、羨ましく感じたのを憶えています。『知識も経験も乏しい学生にこそ、良い顕微鏡を与えて教育することで本物の観察眼が養成できる』。これが美甘先生の考えで、顕微鏡観察に限ったことではなく、多くのことに通じると思っています。これからもより良い教育を目指して、他の教員と協力しながら授業内

容の改善や教育環境の整備に努力して参ります。

私の研究テーマは、「哺乳動物の卵子・精子における染色体異常の生成機序の解明」で、教室創設以来続いてきたテーマです。卵子や精子の染色体異常は放射線や化学物質などの外的因子によって直接的にDNAや紡錘糸が傷付いたときに発生するほか、加齢やホルモンバランスの乱れによる排卵や受精の障害によって二次的に発生することもあります。卵子・精子の染色体異常は妊孕力の低下を引き起こし、やがては人類の再生産力の低下につながる可能性を含んでいるため、研究の進展が望まれます。しかしながら、研究を実施する上での技術的な難しさなどもあって、この分野の研究者は世界的にみても極端に少ないのが現状です。そのため、若い研究者の養成も視野に入れた研究体制作りもしていかなければならないと考えています。

現在、原子力災害対策の一環として放射線医学総合研究所に設けられた緊急被ばく医療研究センターの染色体ネットワーク会議の委員を務めています。この会議ではリンパ球の染色体異常頻度から被ばく線量を推定し、緊急時の対応に備えることをおもな目的としています。地球温暖化防止対策やエネルギー安定供給のために原子力発電への回帰が世界的な流れになってきています。日本では現在、運転中が55基、建設中が2基、そして、この4月には青森県大間町にプルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料を使う新たな発電所の設置が正式に決定しました。たとえ「100%」安全な技術であったとしても、ヒューマンエラーなど不測の事態も考えられ、原子力災害のリスクは「0%」であるとは言いきれません。万が一の事故に備え、研究基盤の整備を進めているところです。

微力ではありますが、次世代につながるような教育、研究に貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 教授就任のご挨拶

看護学講座（精神保健看護学）教授 作 宮 洋 子

平成20年4月1日をもって看護学講座教授を拝命いたしました。このことは身に余る光栄と深く感謝いたしております。また、教授の責任の重さをしっかりと受け止め、全力を挙げて務めてまいりたいと心に誓っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日、少子高齢、核家族化を背景として、こころの健康の保持増進は重要な課題となっています。こころの健康に到達するための課題は、人間が自己の日々の生活において、自らの心のありようを認識し、家族や社会とのつながり、交流などの中での合理的な実践において解決され達成されていくものと考えられます。このような観点から、精神保健看護学は日々の活動実践の科学として、人間の健康向上や社会の発展に果たす役割は大きいと思料いたします。

私は、昭和43年に名古屋大学医学部付属看護学校に入学し、看護の道に入りました。おりしもその前年の昭和42年に保健師助産師看護師法に基づく学校養成所指定規則が改正されており、近代的医療技術者としての人間形成、一般教養の充実、専門的知識、応用能力の向上などが盛り込まれ、大きな改正がなされた最初の年でした。医学部と附属病院そして看護学校は鶴舞キャンパスにあり、学校長先生は名古屋大学医学部精神科の堀要教授でした。堀教授から電気ショック療法による治療やクロールプロマジンなどの抗精神薬の発見、開発の経緯、精神科療法などの講義を受けました。講義を拝聴し、ノートを一生懸命に作成し、看護学校の先輩や同期の友人たちと精神科の治療や看護の難しさについてよく議論したことを思い出します。また、看護学の講義では、看護史のなかで、近代日本の看護や看護学校が大学病院に附属した位置づけで発展してきたこと学び、看護の「看」は「手をかざして見る」ことで遠くのことを見渡すこと、また「熱視する」の意味から、

「見守る、世話する、介抱する」など個別の支援であり、“広く高い視野から人間を見守る”ことが看護なのだとなりました。その後、保健師の養成課程に進学し、昭和47年に愛知県立総合看護専門学校公衆衛生看護学科を卒業し、出身県の石川県職員に採用されました。石川県では保育士の養成機関の保健師として活動を開始し、保健所、保健師養成機関、県人事課福利厚生部門、県健康福祉部、県立看護大学附属機関の社会貢献総合窓口担当などの機関で36年間勤務いたしました。この長きにわたっての勤務を続けられたのは、石川県関係の皆様方、保健所長の先生方、病院の諸先生方のご指導をいただき、先輩保健師の方々にも温かく見守られていたことによるものと有り難く感じております。石川県在勤中の活動や体験は貴重な宝物になっています。

また、日本大学在学中においては文理学部国文学科、法学部法律学科を経て、大学院総合社会情報研究科人間科学を専攻いたしました。多くの先生方のご指導をいただいたことも大きな財産となっています。学ぶこと知ることを通して、学問することの喜びと保健と看護が自己の心の中で大きく飛躍する契機となったように思います。

今後は旭川医科大学の教育理念と目標に沿って、社会に貢献することのできる人材の育成に努めるとともに、疾病の回復や心身の健康増進のための看護活動を理論化し体系づけることで、看護学を実践の科学としてさらなる醸成を目指して取り組んでまいりたいと存じます。自己の新局面として、独立行政法人の職員に採用されたことがあります。大学初任職員オリエンテーションでの教えを胸に刻み、旭川での新しい生活環境に親しんでいきたいと思っております。また、微力ではありますが、病院や大学にお役に立つことができればと存じますのでよろしくお願いいたします。

## 平成20年度 入 学 式

医学科・看護学科の入学式が4月4日（金）10時から本学体育館において挙行されました。

式では、医学科90名、看護学科60名、看護学科第3学年編入生10名、合わせて160名の新入生を代表

して医学科 赤羽裕一くんが宣誓を行い、医学生・看護学生としての自覚を新たに、大学生活の第一歩を踏み出しました。



▲学生代表宣誓

▼入学式の朝 モテモテ部活動誘



▲吉田学長挨拶

▼入学式の朝 よろしくね



## 平成19年度 学位記授与式

平成19年度学位記授与式が、3月25日（火）10時30分から本学体育館において挙行されました。

本学室内合奏団が奏でる調べのなか入場し、医学科96名、看護学科70名、合わせて166名の卒業生一人一人に学長から学位記が授与されました。

引き続き、博士課程12名、論文博士5名、修士課程18名にも学位記が授与されました。

なお当日は、別室にて成績優秀者への学生表彰も行われました。

式の終了後は、学生食堂を会場として祝賀会が開催され、医学科・看護学科それぞれの在校生から送辞が贈られ本学の学生としての最後の一時を噛み締めているようでした。



▲医 学 科



▲学長挨拶



▲ひとり一人と握手を交わす  
吉田学長



▲成績優秀者表彰



▲看護学科



▲祝賀会風景



▼学位授与風景

## 平成20年度 医学科・看護学科新入生合同研修会が実施されました

平成20年度医学科・看護学科新入生合同研修会が4月7日（月）8日（火）の2日間にわたり実施されました。

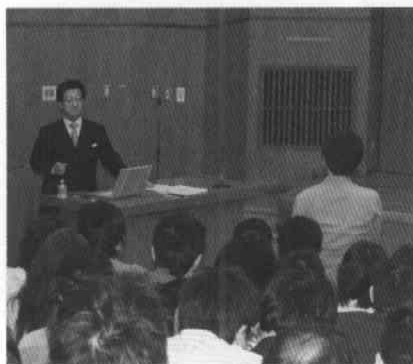
一日目は、9時から看護学科棟大講義室にてグループ毎に着席し、千石学長補佐の挨拶に始まり、吉田晃敏学長により「高い志、深い配慮」と題しました講演が行われました。続きまして保健管理センターの川村祐一郎准教授と藤尾美登世保健師により「健康的な学生生活を送るには－ホケカンとどう付き合うか－」と題しました学生生活における注意と保健管理センターの利用方法の説明を受けました。

午後からは、旭川消費者協会の山下三千世氏による「悪質商法の実態と防止策」、本学医学部微生物学講座の若宮伸隆教授による「エイズの現状とその課題について」、同じく本学医学部内科学講座（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）鈴木康秋助教による「お酒との正しいつきあい方」、最後は本学内科

学講座（循環・呼吸・神経病態内科学分野）長谷部直幸教授による「医学生らしい生活習慣のススメ」の講演を聞き一日目が終了しました。

二日目の午前は、グループ毎に分かれて「コミュニケーションのとりかたについて」、「どのような医療従事者を目指したいか」という課題についての討論とグループ代表による発表会が行われました。最初はぎこちなかった討論も時間が経つにつれて真剣さを増し白熱した意見を戦わせるほどになりました。また、発表にあたっては、ここぞとばかりに流暢なスピーチで会場を沸かせてくれたり、寸劇を交えた発表があったり、応援団風の発表があったり、またイラストなどに隠れた才能を発揮したりと驚かされる場面が多々ありました。

午後からは、グループ毎に分かれて救急蘇生実習及び手話の講習を受け、ぎこちない動きの中にも医療現場に携わる道を選んだ者として、雰囲気をも十分に味わったようでした。



▲新入生の質問に答える吉田学長



▲討論発表



▲救急蘇生実習



▲保健管理センターの講演



▲討論発表



▲手話の講習



## 大学機関別認証評価について

本学では、平成20年3月27日付けで、独立行政法人大学評価・学位授与機構（以下「機構」といいます。）が実施する大学機関別認証評価において、「大学評価基準を満たしている。」との認定を受けました。

この大学機関別認証評価とは、学校教育法により国・公・私立の全ての大学について、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関の実施する評価を受けることが義務付けられているもので、平成16年度から導入された制度です。

大学評価基準は、機構が設定した11の基準で構成され、大学として満たすことが必要とされる内容が規定されており、11の基準を全て満たさなければ認定されません。また、基準ごとに「基本的な観点」が設けられており、その観点（本学の該当観点数は96）に従って大学の状況を分析します。

機構の評価は、書面調査及び訪問調査により行われ、書面調査では、大学評価基準により大学が自己評価し作成した「自己評価書」に基づいて、また、訪問調査では、書面調査において確認できなかった事項等を中心に質疑応答の形で行われたほか、教職員、学生及び卒業生等との面談や教育現場の視察及

び学習環境の状況について、調査が行われました。

評価結果については、冒頭に記載のとおり基準を満たしている旨の認定とともに、主な優れた点として8件の事項が挙げられました。また、主な改善を要する点として1件の指摘がありました。これについては既に改善の措置がとられています。

なお、評価結果の詳細については、本学のホームページに「自己評価書」とともに「評価報告書」を掲載しておりますので、そちらをご覧ください。

(<http://www.asahikawa-med.ac.jp/bureau/kikaku/ninsyoyouhyouka2.html>)

(総務部企画評価課)



認定証 ▶



春の丘陵（上富良野町）

## 教 員 の 異 動

H20. 3. 31	辞職	職	医学部生物学	教授	上	口	勇	次
H20. 3. 31	辞職	職	医学部内科学（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）	准教授	蘆	田	知	史
H20. 3. 31	辞職	職	病院 精神科神経科	講師	稲	葉	央	子
H20. 3. 31	辞職	職	病院 泌尿器科	講師	佐	賀	祐	司
H20. 3. 31	辞職	職	病院 耳鼻咽喉科	講師	荻	野		武
H20. 3. 31	辞職	職	病院 脳神経外科	講師	國	本	雅	之
H20. 3. 31	辞職	職	病院 脳神経外科	講師	橋	詰	清	隆
H20. 4. 1	転出	出	医学部精神医学講座	准教授	布	村	明	彦
H20. 4. 1	昇任	任	医学部物理学	教授	本	間	龍	也
H20. 4. 1	昇任	任	医学部生物学	教授	立	野	裕	幸
H20. 4. 1	昇任	任	医学部内科学（消化器・血液腫瘍制御内科学分野）	准教授	藤	谷	幹	浩
H20. 4. 1	昇任	任	医学部精神医学講座	准教授	田	村	義	之
H20. 4. 1	昇任	任	病院 第三内科	講師	水	上	裕	輔
H20. 4. 1	昇任	任	病院 耳鼻咽喉科	講師	片	田	彰	博
H20. 4. 1	昇任	任	病院 耳鼻咽喉科	講師	坂	東	幸	努
H20. 4. 1	昇任	任	病院 放射線科	講師	稲	岡	良	悟
H20. 4. 1	昇任	任	病院 脳神経外科	講師	安	栄	洋	子
H20. 4. 1	採用	用	医学部看護学講座	教授	作	宮	克	教
H20. 4. 1	採用	用	病院 泌尿器科	講師	北	原	俊	司
H20. 4. 1	採用	用	病院 理学療法部	講師	島	崎	昭	弘
H20. 4. 1	配置換	換	医学部救急医学講座	講師	鈴	木	一	直
H20. 4. 1	配置換	換	病院 麻酔科蘇生科	講師	藤	本	北	宏
H20. 4. 1	配置換	換	病院 集中治療部	講師	小	平	田	哲
H20. 5. 15	昇任	任	病院 手術部	教授	三	代	川	齊
H20. 5. 15	昇任	任	病院 病理部	教授	大	崎	能	伸
H20. 5. 15	昇任	任	病院 呼吸器センター	教授				

## 医大祭 2008 に向けて

旭川医科大学大学祭実行委員会

実行委員長 佐藤 雅



来る6月13日(金)～15日(日)、本校最大級のイベントである医大祭が開催されます。今年も例年に負けない盛況をめざし、実行委員会の総力を結集して準備しております。

僕が実行委員長に就任したときは、正直「これは大変面倒な仕事を任された」という思いが強かったです。そして、「自分なんかを務まるのだろうか」という不安も少なからずありました。しかし、実行委員会のみんながサポートしてくれることと、「やるからには是非成功させたい」という思いから、何とか仕事をこなしています。

今年のテーマは「Sun Rise」です。これには二つの意味があります。

もととなっている言葉“sunrise”は、直訳すると「日の出」という意味になります。ここから「朝

日」を連想し、それを旭川の「旭」とつなげ、地域に根差した医大祭でありたいという想いをこめました。もう一つ、今年は吉田新学長となって初めての医大祭であり、新しい旭医の始まり、すなわち「夜明け」に相応しい医大祭となるよう頑張ろうという委員会の意気込みもこめられています。

部活動単位で運営している模擬店では、今年は例年より多くの団体が参加することになっており、より盛大な賑わいを見せてくれることが期待されます。体育館でのお笑いライブではアンジャッシュさんらをお呼びし、また、講演会では映画監督の井筒和幸さんにお越しいただく予定です。その他にもフリーマーケットやゲーム大会、医学展、本学講師による公開講座など、たくさんのイベントを用意し、皆さんをお待ちしております。訪れたすべての方楽しんでいただけるよう、準備に邁進していますので、週末は是非医大祭へお越しください。